

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	児童発達支援センターめだか			
○保護者評価実施期間	令和8年2月2日		～	令和8年2月13日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	42	(回答者数)	33
○従業者評価実施期間	令和8年2月2日		～	令和8年2月13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	23	(回答者数)	22
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年3月31日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・利用児、保護者に寄り添い、丁寧な支援ができています。	・子どもの特性、発達状況を見極めて、一人一人に合わせた支援を実施している。 ・設定療育やあそび、季節の行事などを実施する中で色々な経験をし、集団活動を楽しめるよう支援している。 ・ケース会等を適宜開催し、職員間で共通理解を図っている。 ・連絡帳等をうまく活用し、利用児の状況について細かいやり取りをしている。 ・年3回の懇談を設けたり、ご意見箱を設置したりしている。	・職員研修を充実させ、更に職員のスキルアップが図れるようにしていく。 ・療育の内容を工夫し、こどもが成長していけるように取り組んでいく。 ・ケース会等に短時間勤務の職員も参加できるように考えていく。 ・気軽に意見が聞けるようにご意見箱の設置について周知したり、分かりやすい場所に設置したりする。
2	・作業療法士、言語聴覚士等の専門職と連携した支援ができています。	・多職種連携を図ることによって、全職員がスキルアップできるように取り組んでいる。 ・発達検査、構音検査などを実施し、一人一人に合わせた個別指導を実施している。	・研修会に参加し作業療法士、言語聴覚士等の専門性を高めさせていく。 ・作業療法士、言語聴覚士等が実施する研修で他職種のスキルアップを図る。
3	・相談支援事業所が園内にあり、連携がとりやすい。	・センターでの様子、家庭での様子を情報共有しながら、よりきめ細やかな支援につながるようにしている。	・他の相談支援事業所との連携を緊密にしていく。 ・相談支援事業所の職務や役割についての理解を深める。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・建物の老朽化、部屋の狭さなどハード面に対する問題がある。	・建物の老朽化、部屋の狭さなどハード面に対する問題がある。	・クラス間で協力し、現状あるスペースの有効活用をしていく。 ・環境、遊具等の安全点検を実施し、修繕等をしていく。 ・令和8年度に建設検討委員会を立ち上げて移転に向けて計画的に取り組んでいく。
2	・職員会議等で話し合いの機会を持つことができていますが、全職員へ共有ができていないことがある。	・勤務体制、時間の都合で職員全員が揃うことが難しい。 ・会議録の回覧をしているが、タイムラグがある。	・出勤時に会議録の確認をしてもらう。 ・クラスの間はクラスで連絡、確認をしていく。
3	・保護者交流会、研修会等への参加人数が少ない。	・交流会や研修会の周知の仕方や実施内容等を考慮する必要がある。	・令和7年度末に実施したアンケート結果を参考にし、実施の時期や内容を考慮する。